資料 No.4-4-2

2013 年度 小委員会活動成果報告

（2014 年 2 月 12 日作成）

小委員会名	建築気象データ小委員会	**主 査 名**：松本　真一 **就任年月**：2013 年 4 月
所属本委員会 （所属運営委員会）	環境工学委員会 （建築設備運営委員会）	**委員長名**：田辺　新一 **主 査 名**：郡　　公子
設　置　期　間	2013 年 4 月　　～　　2015 年 3 月	
設　置　目　的 各年度活動計画 （箇条書き）	・ 紫外線 UV-A、UV-B の推定方法の確立とデータ整理 ・ 1 分値気象データの整備 ・ 30 年(1981～2010)拡張アメダス気象データの整理に向けた検討 ・ 設計用気象データの整理に向けた検討 ・ 建築気候マップの整理に向けた検討	
委員構成 （委員名（所属））	**委員公募の有無**：無 主査：松本真一（秋田県立大） 幹事：細淵勇人（秋田県立大） 委員：赤坂　裕（鹿児島工専）、荒井良延（鹿島技研）、　井川憲男（前大阪市大）、 永村悦子（園田学園大）、永村一雄（大阪市大）、　菊池卓郎（竹中技研）、 木下泰斗（日本板硝子）、窪田真樹（鹿児島大）、　斉藤孝一郎（YKK AP）、 二宮秀與（鹿児島大）、　武田和大（鹿児島工専）、中山哲士（岡山理科大）、 福留伸高（首都大東京）	
設置 WG （WG 名：目的）		
2013 年度予算	90,000 円	**ホームページ公開の有無**：無 **委員会 HP アドレス**：

項　　目	自己評価
委員会開催数	4 回（年度内計画を含む）
刊行物 （シンポジウム資料等は除く）	
講習会	
催し物 （シンポジウム･セミナー等） *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 （当初の活動計画と得られた成果との関係）	１．UV-A/-B の推定方法を実測データに基づき精細に議論し、全般的な方向性を見出した。年度末には第一次の検証を実施予定。 ２．収集・整理した既往の 1 分値気象データのメンテナンスを実施した。 ３．2001 年～7 年の拡張アメダス気象データを公開し、2008 年～10 年データの作成に取り組んだ。年度末には完成予定。 ４．気象データの実務適用結果やデジタル百葉箱による多点観測結果などを相互に報告し、設計用気象データやマップ整備の方向性を議論した。 ５．震災被害 3 県の復興住宅環境設計用マップを提案し、作成の方法論を議論。
委員会活動の問題点・課題	（主査の意見）活動成果の学会全体への還元のためには、大会などでの研究発表における議論の活性化（充実）を図る必要がある。（最近では関連の委員間のみで議論している感が強い。）

＊小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
＊表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。

＊　小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

＊　中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用　自己評価欄

2013 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	(A)　B　C　D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	学振科学研究費 2 件等の支援を得て、紫外域日射（UV-A/-B）の観測を委員の所属する 4 大学で実施することにより、精細なデータを蓄積し、分析を進展させた。その結果、UV-A/-B を日射量から推定する方法に関する議論が深まり、オゾンの衛生データを活用する方向性を共有することができた。年度末には、第一次の検証結果を発表する予定である。また、学振科学研究費 2 件等の支援のもと、1 分値データの収集整理をほぼ終え、公開に向けた作業の準備を整えた。 予定通り、2001 年～2007 年の拡張アメダス気象データを作成して公開した。ただし、時間的な制約から予め想定したところではあるが、本報告作成時点で 2010 年までの公開には至らなかった。年度末までには少なくともデータのチェックを終え、公開直前の状態にする予定である。この点は、目標未到達であり、全体的な達成度 90%の自己評価の主要因である。 しかし、委員会における相互の研究活動の報告と討議を通じて、設計用気象データの整備や設計用マップの整備のあり方などの方向性を検討することができた点では、活発な一年であったと総括できる。

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画･目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価･外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。